



さつき松原海岸でのビーチクリーン。一見何もない砂浜でも、ザルで砂をすくうとたくさんのマイクロプラスチックが出てきます。



福岡教育大学の学生とのワークショップ。2030年の世界を想像して「未来の流行語大賞」を考えました。

将来のアジア・オセアニア地域を担う若者を育成する JALSスカラシッププログラム

日本と海外、つながる 次世代の輪

2024年6月27日〜7月18日に、「SDGs」持続可能な未来へ」をテーマとした全22日間の研修プログラム(オンライン&対面)を実施しました。アジア・オセアニア地域19の国と地域から選出された海外学生(海外スカラシ生)24名と、日本人学生(東京スカラシ生)11名が参加し、持続可能な未来の

実現に向けて共に学び、考え、アクションプランをグループごとに企画しました。

わくわくと不安が入り混じる オンラインでの出会い

7日間のオンラインプログラムでは、専門家による講義を中心にSDGsや環境問題に関する話題提供がされました。江守正多氏(東京大学未来ビジョン研究センター

JALSスカラシッププログラムは、アジア・オセアニア地域の大学生を日本へ招待し、日本人学生との交流・研修や文化体験を通じて国境を超えた相互理解の促進を目指しています。JEEFは2022年から企画・運営に関わり、SDGsについての研修、施設見学、フィールドワーク、ワークショップ等を提供しています。

教授)、道家哲平氏(UCN-J事務局長)、大葉ナナコ氏(DFC Japan代表)などを講師に迎え、気候変動や生物多様性などの環境問題の現状や、身近にできる取り組みについて学びました。海外スカラシ生の多くは日本文化や国際交流に関心を持って日本語を学んでおり、SDGsや環境問題について学ぶのは今回が初めてという方がほとんど。プログラム中の

福岡・東京の15日間 体験から実感する学び

15日間の対面プログラムでは、福岡県(宗像市・北九州市)と東京近郊を拠点にSDGsの取り組みを行う団体・企業の訪問や、海や森の保全活動を体験しました。福岡では宗像大社での参拝体験に始まり、タカミヤ環境ミュージア



アクションプラン発表会での集合写真。
民族衣装で参加したスカラー生の姿も。

海の森公園（東京都江東区）での森林の育樹活動。みんなで協力して長いツタを引っこ抜く！



ルドワークも実施し、身近にある日常的な取り組みに目を向ける機会となりました。

国境を越えた仲間と つくったアクションプラン

最終日にはグループごとのアクションプランと、一人ひとりの「わたしの2030年目標」を発表。漢字二字で表した自分の夢や全行程を通じた学びについて35名のスカラー生全員がスピーチを披露しました。

ムやシャボン玉石けんの工場の視察など、海の環境問題の現状と解決に向けた取り組みを中心に学びました。さつき松原海岸と大島でのビーチクリーン体験では、日本語以外の言語が書かれたパッケージのごみが見つかり、驚きの声があがりました。その前日に清野聡子氏（九州大学准教授）の講義で聴いた通り、「海は国境無くつながっており、海洋保全のためには国や地域を越えた協力が必要である」と身をもつて感じた体験となりました。また、福岡教育大学ではSDGスクラブの紹介を聴いたり、大島学園では中学生とワークショップを行ったりと、現地の学生との交流もありま

した。東京では、日本フードエコロジーセンターやさがみこファームを視察。フードロスへの取り組みや、農産物と自然エネルギーを同時に生産する「ソーラーシェアリング」など、ビジネスモデルとして構築された企業の取り組みに高い関心が集まりました。「次に来日する時にはインターンをさせてほしい!」と、自身の今後を見据えた意欲的な声もありました。また、浅草や渋谷で体験できるSDGの取り組みを東京スカラー生が事前に調べて海外スカラー生を案内するフィー

国や地域を越えて友情を深めたスカラー生たち。空港への見送りの際には涙ながらに別れを惜しみ、それぞれが再会を誓い合いました。次世代を担う若者たちが持続可能な未来の実現に向けてネットワークを

築いた22日間。今回の経験が夢の実現に向けた貴重な一歩となり、これからもそれぞれの歩みが続いていくことを期待します。

5つのグループによる アクションプランの概要

- ・ JALスカラシッププログラム 歴代参加者のコミュニティ構築のための同窓会開催
- ・ ファストファッションについてのインタビュ・SNS・ポスターによる啓発活動
- ・ プラスチックごみ削減のための1週間分のチャレンジ表アプリの開発
- ・ GPAP（「GOMI PROBLEM ACTION PLAN」）動画の作成とSNS発信
- ・ ごみ処理を学ぶオンラインゲームの開発

東村 ほか

(ひがしむら ほか)

2024年4月入職。第2事業グループ職員として国内事業やデザイン制作を担当しています。造形ワークショップやデザイン、美術教育を専門とし、アート（造形）を活かした体験の場づくりをします。誰もが幸せに暮らせる未来に向けて、環境教育で何ができるのか日々考え中。